

[お問い合わせ](#) [サイトマップ](#)[製品情報](#)[投資家情報](#)[CSR活動](#)[採用情報](#)[会社情報](#)

<a href="#">トップメッセージ</a>	<a href="#">経営理念</a>	<a href="#">CSRマネジメント</a>	<a href="#">CSR活動実績</a>	<a href="#">社会性報告</a>	<a href="#">環境報告</a>
<a href="#">編集方針</a>	<a href="#">CORPORATION REPORT</a>	<a href="#">ダウンロード資料</a>			

[トップページ](#) [CSR活動](#)

## CSR活動

### CSRニュース

2016.07.15	CSR活動	CSR活動を更新いたしました
2016.05.27	CSR活動	調達ガイドラインを改定いたしました
2016.01.22	CSR活動	ISO14001認証証明書を更新いたしました
2015.11.20	CSR活動	グリーン調達基準付属書を改定いたしました
2015.07.13	CSR活動	CSR活動を更新いたしました

#### ・トップメッセージ

株式会社タムラ製作所代表取締役社長田村直樹からのメッセージです。



#### ・経営理念

お客様や社会に喜んでいただける製品・サービスを提供し続ける「オンリーワン」カンパニーを目指します。



#### ・CSRマネジメント

- ▶ タムラグループのCSR
- ▶ コーポレート・ガバナンス
- ▶ コンプライアンス
- ▶ リスクマネジメント



#### ・CSR活動実績

タムラ製作所の主なCSR活動をご紹介します。



#### ・社会性報告

#### ・環境報告

- ▶ お客様との関わり
- ▶ 取引先の皆様との関わり
- ▶ 株主・投資家の皆様との関わり
- ▶ 従業員との関わり
- ▶ 社会貢献活動



- ▶ 環境経営
- ▶ 環境目標および実績と評価
- ▶ 環境保全への取り組み



## ▶ 編集方針

CSR活動はタムラグループの企業活動そのものであるという考えから、当社が事業活動を通じてCSRを実践している姿をわかりやすく伝えるように心がけました。



**！ 報告対象期間：2015年4月1日～2016年3月31日(一部、2016年4月以降の活動も含みます)**

## ▶ CORPORATION REPORT

最新のCORPORATION REPORTとそのバックナンバーPDFをダウンロードいただけます。



## ▶ ダウンロード資料

- ▶ 調達ガイドライン
- ▶ グリーン調達基準
- ▶ ISO14001認証証明書



- ▶ CSRに関するお問い合わせ

## ピックアップ



- ▶ 経営理念



- ▶ タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品



- ▶ 新卒採用情報



- ▶ CORPORATION REPORT


[お問い合わせ](#)
[サイトマップ](#)

[Language](#)

製品情報

投資家情報

CSR活動

採用情報

会社情報

トップメッセージ	経営理念	CSRマネジメント	CSR活動実績	社会性報告	環境報告
編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料			

[トップページ](#) ▶ [CSR活動](#) ▶ [トップメッセージ](#)

## トップメッセージ

ステークホルダーの皆さまから信頼され、100年先も変わらずに社会に貢献できるタムラグループを目指します。



株式会社タムラ製作所  
代表取締役社長 田村直樹



### 国連グローバル・コンパクト支持表明メッセージ

タムラグループは、国連グローバル・コンパクトの人権、労働、環境および腐敗防止の4分野に関する10原則を引き続き支持し、推進してまいりますことを、ステークホルダー（利害関係者）の皆様方に宣言いたします。

## 国内外の厳しい経済環境の中で正しい健全な経営体質を確立

2015年度は、収益性の拡大を目標に掲げた第10次中期経営計画「Bilrite Tamura」の最終年度でした。残念ながら国内外ともに鮮明になってきた景気減速の影響を受けて、当社の事業もやや失速した形になり、売上高は846億円と前年を下回りました。一方、減収でありながらも営業利益が43億円、利益率が5%と増益を確保し、中期計画の柱のひとつであった「正しい健全な経営体質を作る」ことは達成できたと考えています。

セグメント別では、企業における設備投資意欲の減退を受けて、電子部品関連事業が2015年度の成長ポイントとして狙っていた工作機械関連部品の受注で伸び悩んだことと、円高対応として海外生産に舵を切っていた中での円安が負担となりました。黒字は確保しましたが、中期計画の最終年度に大きく成長を遂げるという目標を達成できなかったことは大きな反省点です。電子化学実装関連事業は、スマートフォン市場の飽和状態が若干の足かせになりましたが、順調に利益を伸ばしました。情報機器関連事業はこの1年で急成長し、まだまだ小粒ではありますが、売上高も利益率も中期計画を上回る数字が出ています。大きな成長という課題は次の中期計画へ持ち越しとなりましたが、着実に利益を出す健全な経営体質づくりに成功したことから株主への利益還元も強化し、普通配当を7円に増額しました。次期中期計画においても、さらなる増額を目標に掲げています。

## 「GROWING（成長）」を明確に打ち出した第11次中期経営計画を策定

2016年度よりスタートした第11次中期計画では「GROWING（成長）」を前面に出したスローガンを掲げ、「正しく豊かな成長への道筋を作る」という新たな目標を加えました。「正しく立派な製品を作る」「正しい健全な経営体質を作る」「正しい最適なグローバル体制を作る」とした3つの目標を継承しつつ、大きな成長に至らなかった前中期計画の反省を踏まえた目標をプラスし、新中期計画を2024年に迎える創業100周年に向けた「成長のステージ」と位置づけています。

## 社会が共有できる価値ある製品を提供し、ステークホルダーの皆さまに幸せをもたらす

タムラ製作所の使命とは、社会全体が共有可能な価値ある製品の提供によって、当社を支えてくださっているお客様、株主、従業員、地域社会などステークホルダーの皆さまに幸せをもたらすことです。その意味で、事業を通じてグループミッションを達成することこそ当社のCSRであり、経営とCSRは一体不可分なものであると考えています。

当社の事業はカスタムメイドが中心で、お客様が望む仕様に合わせてものづくりを行います。それは単に性能だけではなく、安全性や環境配慮など実際に社会で使われる場面での製品価値を包含していると考えています。お客様の希望を受け、それを上回る価値の製品を開発し、その価値提供がタムラの評価を高めて、さらに価値の高い製品が作れるようになる。こうした理想的なサイクルを創造することが、我々がCSRに取り組むモチベーションとなっています。

## 社員一人ひとりの意識を高め長期的視野を持って継続的に取り組む

タムラが社会から信頼される企業として、CSR活動の根本に置くべきものは、ガバナンスの強化だと考えています。2015年度には「コーポレートガバナンス・コード」が本格導入されましたので、その対応を積極的に進めました。取締役会の制度改定、社外取締役の増員、報酬諮問委員会の設置など、これまで未対応だった課題を着実に実行してまいりました。

最近では企業のコンプライアンスに反する行為がニュースを賑わせており、外的なものだけでなく、内的な要因も含めて、あらゆるリスクに備えることが企業に求められています。私はリスクマネジメントとして、業務の流れを可能な限りオープン化し、業務に歪みを発生させないことを重視しています。そのために、海外を中心に30社を超える子会社の生産管理システムを統一し、いつどこで何が起きているかをリアルタイムに把握できるようにしました。さらに、経営的なリスクが発生した際には風通し良く報告が上がる仕組みとして「アラームエスカレーションWeb報告システム」を整備し、リスクの芽を誰かが感じたら速やかに会社の中核に伝達されるようにしています。

また、社内へCSR意識の浸透を図っていくことがリスク回避に重要であるという考えのもと、CSRマニュアルを分かりやすくブレイクダウンしたメールマガジン「Tamura CSR Today」を全社員に毎日配信しています。2015年8月から配信を始め、既にマニュアルの全項目についての配信は完了しました。メールマガジンでは、CSRに関する疑問点をQ&A形式で分かりやすく解説しており、社員一人ひとりの理解も深まりました。

当社は、社会に価値をもたらす製品として環境貢献製品の開発に力を入れていますが、新しい価値を持つ製品づくりやCSR活動は必ずしもすぐに結果が出るものではなく、継続することで成果につながるものだと思います。長期的視野を持って継続的に取り組むため、先頭に立って当社の目指す方向性を示しつつける。それこそがトップである私自身の責任です。

タムラ製作所は、2024年に大手の電子部品メーカーとしては先陣を切り創業100周年を迎えます。それまでに当中期計画で掲げた成長への道筋を確固たるものとし、この先の100年も変わらず信頼され、社会に貢献する企業として発展を続けて行きたいと考えています。

2016年7月

株式会社タムラ製作所  
代表取締役社長

田村 直樹

## ピックアップ



▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミア環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT

お問い合わせ

サイトマップ

検索キーワードを入力

Language

製品情報

投資家情報

CSR活動

採用情報

会社情報

トップメッセージ	経営理念	CSRマネジメント	CSR活動実績	社会性報告	環境報告
編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料			

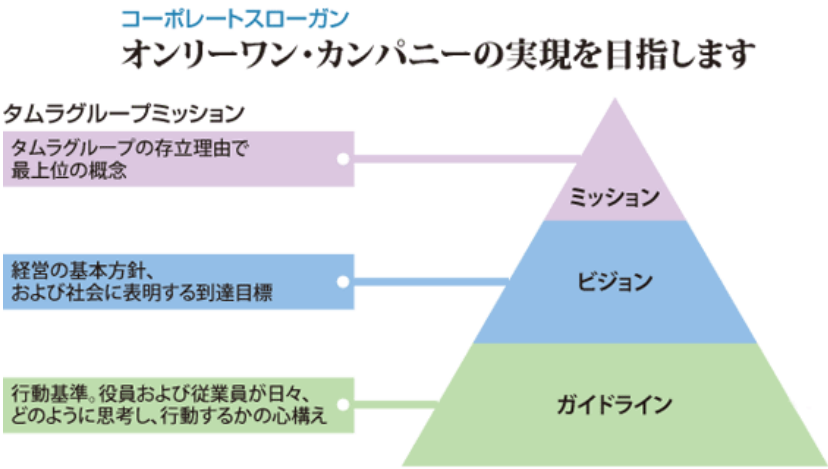
トップページ ▶ CSR活動 ▶ 経営理念

# 経営理念

人々の幸せを育むため、タムラにしかできないこと、タムラだからできることを極め、お客様や社会に喜んでいただける製品・サービスを提供し続ける「オンリーワン」カンパニーを目指します。

## 経営理念体系

創業の精神である「お客様に世界の一流品を提供する」意志・姿勢を「オンリーワン」と表現し、経営理念を象徴するスローガンとして掲げています。2000年4月、ミッションを頂点とし、ビジョン、ガイドラインと並ぶ三層構造の「タムラグループミッション」を制定しました。「タムラグループミッション」には、「オンリーワン」カンパニーであるとともに「国際社会から認められるグローバル企業を目指したい」「従業員が誇りと夢を持ち続けられる企業でありたい」という想いが込められています。2007年1月には、「タムラグループミッション」のガイドラインを具体的な行動に落とし込んだ「タムラグループ行動規範」を制定しました。2014年3月には「タムラグループ行動規範」を改定、ISO26000の「社会的責任に関する手引き」が示す7つの原則を尊重し、7つの中核主題に取り組むことを基本方針として明記しました。



Mission（ミッション）

私たちは タムラグループの成長を支える全ての人々の幸せを育むため、世界のエレクトロニクス市場に 高く評価される独自の製品・サービスをスピーディに提供していきます。

Vision（ビジョン）

1. タムラグループは、世界的視野にたち、エレクトロニクス産業が求める事業を経営基盤とします。

2. タムラグループは、市場本意をつらぬき、世界のお客様が求める技術を事業基盤とします。

3. タムラグループは、公正な視点で社員を評価し、努力によって成果をもたらす人を最も賞賛します。

4. タムラグループは、国際社会の一員として行動し、各国の法規制を順守し文化・慣習を尊重します。

5. タムラグループは、地球環境の保全に努め、資源の有効化と再資源化を推進します。

### Guideline（ガイドライン）

1. 私たちは、パートナーシップを大切にします。

私たちは、地位や専門性そして国や組織の違いをこえて、お互いを信頼できるパートナーとして、個人およびチームの目標を達成します。また、市場のニーズを的確にとらえ各自の専門性を研ぎ、お客様からの期待をさらに高めます。

2. 私たちは、革新する勇気を大切にします。

私たちは、技術革新の著しい世界のエレクトロニクス業界で生き残っていくため、過去の常識や成功体験をこえて、革新的な発想や行動を称賛します。

3. 私たちは、多彩な個性を大切にします。

私たちは、基本的人権を尊重し、さまざまな文化や生活習慣の違いをこえて、グループの英知を 結集し、世界のお客様から高く評価される独自の価値を創造します。

4. 私たちは、社会的な責任を大切にします。

私たちは、自分の仕事や行動に責任をもち、信頼をいただいている株主やお客様・協力会社、そして事業を営む国および地域社会に対し、正直かつ公正に対処します。また、環境問題への取り組みはグループ存続の条件と認識し、積極的に行います。

### ◆タムラグループ行動規範

「タムラグループ行動規範」は、以下の17項目について、項目毎に基本方針および代表的な行動規範を示したものです。

#### 「タムラグループ行動規範」 構成内容：

##### 総則

1. お客様の信頼と満足の獲得
2. 株主等経営を支援していただく皆様からの信頼の獲得
3. 基本的人権の尊重
4. 安全で健康的な職場環境
5. 自由な競争及び公正な取引
6. インサイダー取引の禁止
7. 不適切な接待及び贈答の禁止
8. 公的機関との不適切な取引及び不適切な政治献金の禁止
9. 安全保障輸出入管理関連法令の遵守
10. 知的財産権及びノウハウの創出、保護と活用
11. 反社会的行為への関与の禁止
12. 競業及び利益相反行為の禁止
13. 適切でタイムリーな情報開示
14. 情報（企業情報・個人情報等）の適切な保護及び管理
15. 会社資産の保護
16. 地球環境の尊重
17. 国際社会との協調及び地域との共生

## ピックアップ



▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT

[サイトマップ](#)

[このサイトについて](#)

[プライバシーポリシー](#)

Copyright © 2016 TAMURA Corporation. All rights reserv



トップメッセージ	経営理念	CSRマネジメント	CSR活動実績	社会性報告	環境報告
編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料			
タムラグループのCSR	コーポレート・ガバナンス	コンプライアンス	リスクマネジメント		

[トップページ](#) ▶ [CSR活動](#) ▶ [タムラグループのCSR](#)

## タムラグループのCSR

私たちは、タムラグループミッションを事業活動の中で実現することが、タムラグループのCSR（企業の社会的責任）だと考えます。そのためには、私たち一人ひとりがCSRを理解し行動していくことが大切と考え、推進活動を積極的に行っています。

### 新たなCSR推進体制

CSR経営委員会をトップとしたCSR推進体制を構築し、主にコンプライアンス・企業倫理、危機管理、情報管理、人権・労働、環境・品質、社会貢献の6つの分野に取り組んでいます。そのうち、コンプライアンス・企業倫理については独立した組織で活動してきましたが、2016年4月よりCSR推進体制にコンプライアンス推進機能を統合し、新たな体制に再構築しました。従来のCSR経営委員会にコンプライアンス委員会を、従来のCSR推進委員会にコンプライアンス推進連絡会を統合、またCSR経営委員会の中に重大なコンプライアンス問題を扱う特別委員会を新設して運用を開始しています。

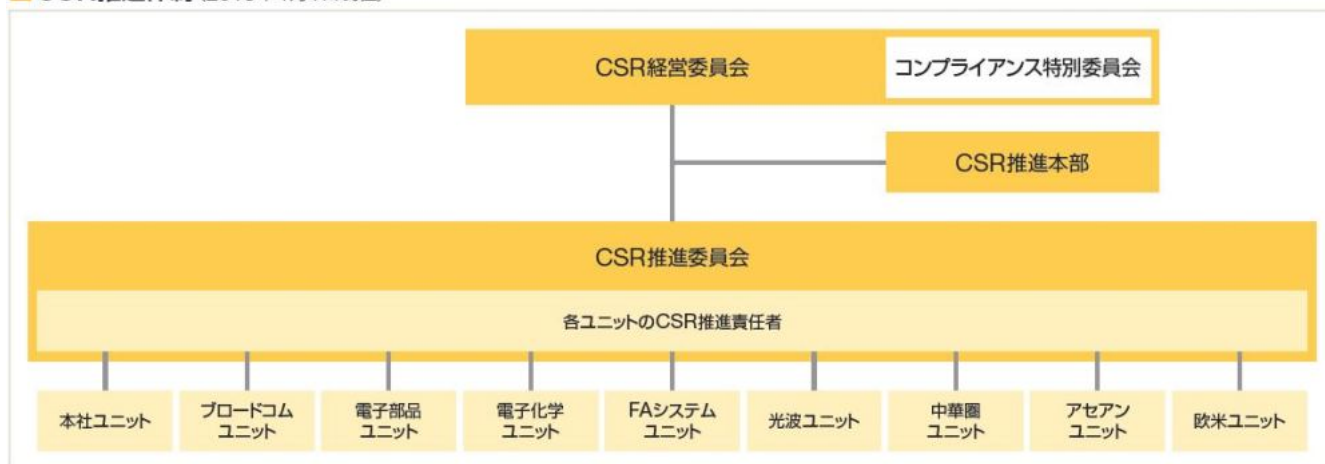
#### ＜CSR推進責任者の声＞

##### CSR推進本部副本部長 岡本 恭一

これまでCSRとコンプライアンスを区分した推進活動を行っていたため、4つの委員会および連絡会組織が存在していましたが、体制の統合に伴いそれを2つに集約し、シンプルな形としました。CSRの取り組みに係る役割も明確に規定し直し、従業員全員が理解しやすい体制とするとともに、活動の効率化も狙いとしています。活動の主体は従来通り事業所毎のCSRユニットとなりますが、より広範なテーマに取り組み、CSR活動を通じて社会の要請に応えていくとともに、企業価値向上を目指してまいります。



#### ■ CSR推進体制 (2016年4月1日現在)



## ■ タムラグループの主要なステークホルダー



## 国連グローバル・コンパクトへの参加

タムラグループは、国連グローバル・コンパクトの10原則を支持することを表明し、2008年9月に参加いたしました。人権の保護、不当な労働の排除、環境への対応、腐敗の防止の4分野10原則に関するコミットメントをタムラグループ行動規範に反映し、活動を継続しています。

国連グローバル・コンパクトへの取り組みについては、こちらをご覧ください。



## ISO26000対応

ISO26000の定める「関連する行動及び期待」を基に「タムラグループ行動規範」との整合を実施、2014年3月に「タムラグループ行動規範」を改定し、ISO26000の「社会的責任に関する手引き」が示す7つの原則を尊重し、7つの中核主題に取り組むことを基本方針として明記しました。

## CSRの浸透

倫理や法令を順守し、ステークホルダーの要請等取り組むべき課題を日常の業務の中で実行することがCSR活動であり、役員、従業員一人ひとりがCSRを理解し、行動することが重要です。

### ◆CSR情報サイトの公開

タムラグループのCSR活動を理解する情報源として、2011年に社内ネットワーク上に「CSR情報サイト」を開設し、CSRの入門教育に活用してきました。2014年度には、日常業務において直面するもしくは直面する恐れのあるCSR上のリスク項目を抽出、Q & A形式で解説した「実践編」を制作し、社内公開しました。

### ◆コンプライアンス教育

コンプライアンス経営の実現には、経営者だけでなく、従業員一人ひとりの意識と感度を高めることが不可欠であり、その重要な手段としてコンプライアンス教育を位置づけています。

毎年、新入社員入社時には書籍「会社員のためのコンプライアンス入門」を配付し、同時に導入研修を行っています。2015年度は、当社にとってコンプライアンスリスクの高い課題である不正競争防止法・下請法の社内研修を、国内の5事業所及び2営業所で実施しました。また、タムラ製作所及び国内関係会社の役員・従業員約1,200名を対象に、イントラネット内に開設している「CSR情報サイト」のコンテンツをメールマガジン形式で毎日配信、そのうち労務管理、化学物質管理に係る項目について管理職を対象としたセルフチェックアセスメントを実施しました。2014年度に引き続き、映像・研修教材を用いた小集団での討議形式研修も行いました。コンプライアンスの知識を実務で活かす様々な取り組みを通じ、浸透を図っています。

## 社外からの評価

---

### ◆企業の環境経営度調査 日本経済新聞社

「環境経営度調査」は、環境対策への取り組みと経営効率の向上を企業がいかに両立しているか、社内の環境経営推進体制や温暖化対策、資源循環などの項目について評価し、ランキングにまとめたものです。

2015年度のランキングは、製造業413社中185位（2010年度は349位、2011年度は229位、2012年度は209位、2013年度は212位、2014年度は181位）でした。

### ◆CSR企業ランキング 東洋経済新報社

「CSR企業ランキング」は、人材活用、環境、企業統治と社会性のCSRの取り組み内容と財務データから「信頼される会社」を見つけるランキングです。

1000社以上を対象に調査を実施しており、2015年度のランキングは総合244位（2009年度は296位、2010年度は265位、2011年度は231位、2012年度は220位、2013年度は297位、2014年度は246位）でした。

## 紛争鉱物問題への取り組み

---

紛争鉱物問題への取り組みはこちらをご覧ください。

## ピックアップ

---



▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT

[サイトマップ](#)

[このサイトについて](#)

[プライバシーポリシー](#)

Copyright © 2016 TAMURA Corporation. All rights reserved.

## 国連グローバル・コンパクトへの取り組み

国連グローバル・コンパクトの10原則			タムラグループの方針	掲載箇所
人権	原則 1	企業は、国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重すべきである	「タムラグループ行動規範」に以下項目を明記 1.お客様の信頼と満足の獲得 として 紛争鉱物不使用の推進 3.基本的人権の尊重 として 企業活動の中での差別及び非人道的な扱いの禁止、結社の自由の尊重、強制労働・児童労働等の不当労働の禁止	<a href="#">タムラグループのCSR</a> ・コンプライアンス教育
	原則 2	企業は、自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである		<a href="#">取引先の皆様との関わり</a> ・CSR調達の推進 ・紛争鉱物問題への取り組み
労働	原則 3	企業は、結社の自由と団体交渉の実効的な承認を支持すべきである		<a href="#">従業員との関わり</a> ・人権の尊重・差別に関する方針 ・労働に関する基本方針 ・多様性の推進
	原則 4	企業は、あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持すべきである		
	原則 5	企業は、児童労働の実効的な廃止を支持すべきである		
	原則 6	企業は、雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである		
環境	原則 7	企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持すべきである	「タムラグループ行動規範」に 16. 地球環境の尊重を明記 「タムラグループ環境方針」を制定	<a href="#">取引先の皆様との関わり</a> ・グリーン調達の推進 <a href="#">環境経営</a> <a href="#">環境目標及び実績と評価</a> <a href="#">環境保全への取り組み</a>
	原則 8	企業は、環境に関するより大きな責任を率先して引き受けるべきである		
	原則 9	企業は、環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである		
腐敗防止	原則 10	企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである	「タムラグループ行動規範」に以下項目を明記 5. 自由な競争及び公正な取引 7. 不適切な接待及び贈答の禁止 8. 公的機関との不適切な取引及び不適切な政治献金の禁止	<a href="#">タムラグループのCSR</a> ・コンプライアンス教育 <a href="#">取引先様の皆様との関わり</a> ・CSR調達の推進



お問い合わせ

サイトマップ

検索キーワードを入力

Language

製品情報

投資家情報

CSR活動

採用情報

会社情報

トップメッセージ	経営理念	CSRマネジメント	CSR活動実績	社会性報告	環境報告
編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料			
タムラグループのCSR	コーポレート・ガバナンス	コンプライアンス	リスクマネジメント		

トップページ ▶ CSR活動 ▶ コーポレート・ガバナンス

# コーポレート・ガバナンス

企業価値を最大化する企業経営に取り組むため、コーポレート・ガバナンス体制の充実を図っています。

## コーポレート・ガバナンスの考え方

タムラグループは、経営の透明性・効率性の向上をコーポレート・ガバナンスの基本方針とし、経営陣の強い使命感と高い企業倫理観に基づき、コンプライアンス経営と企業価値の最大化に努め、株主の皆様をはじめとするすべてのステークホルダーが求める経営を目指します。詳細およびコーポレート・ガバナンス報告書はこちらをご覧ください。

## コーポレート・ガバナンス体制

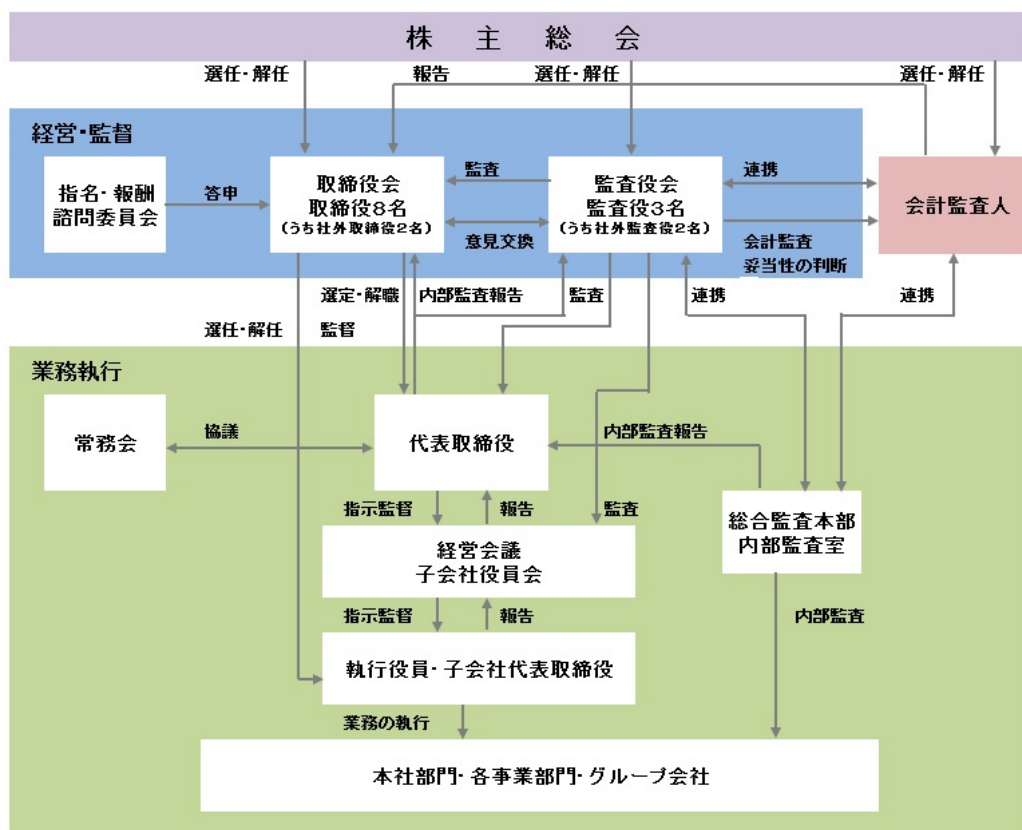
### ◆取締役会と執行役員機構

経営の意思決定と業務執行の乖離を防ぐため、各事業部門を統括する執行役員を取締役が兼務する「執行役員制度」を採用しています。取締役会を原則毎月1回、取締役と各部門責任者による業務執行・経営監視に関する経営会議を年に8回程度開催し、取締役の効率的な業務執行を確保しています。

### ◆監査役制度と内部監査

監査役3名（うち社外監査役2名）からなる監査役会を置き、取締役会・経営会議への出席、取締役などからの職務執行状況の聴取、重要な決裁書類の閲覧、主要事業所での業務及び財務調査等により取締役の職務の執行を監査しています。また、総合監査本部内部監査室は年度監査計画書に基づき、監査役と連携して本社およびグループ各社の国内・海外の拠点について内部監査を行っています。

### ◆コーポレートガバナンス体制図



## コーポレートガバナンス・コードへの対応

2015年6月から東京証券取引所上場会社に適用された「コーポレートガバナンス・コード」を、当社グループのガバナンス強化の機会と捉え、積極的に対応を進めました。独立社外取締役の独立性判断基準制定や取締役会規則付議事項の改定をはじめ、コーポレートガバナンス・コードの求める基準設定及び規程改定によるルール整備や、取締役会運営に係る運用の見直し等を行い、開示対象の原則・補充原則についてはコーポレート・ガバナンス報告書でその対応状況を開示しております。

## 内部統制システムに関する基本的な考え方

タムラグループは、経営コントロールの強化を実現するための内部統制システムの目的を「経営の安定化および効率化」「適正な説明責任の実行」「法規制と内部規程の遵守」とし、「リスクマネジメント」「コンプライアンス」「内部監査」をその実現手段として捉え、その実現のための体制を構築しています。

## ピックアップ



▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT



お問い合わせ

サイトマップ

検索キーワードを入力

Language

製品情報

投資家情報

CSR活動

採用情報

会社情報

トップメッセージ	経営理念	CSRマネジメント	CSR活動実績	社会性報告	環境報告
編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料			
タムラグループのCSR	コーポレート・ガバナンス	コンプライアンス	リスクマネジメント		

トップページ ▶ CSR活動 ▶ コンプライアンス

# コンプライアンス

倫理・法令の遵守を徹底するとともに、想定されるさまざまな経営危機に適切に対応するため、コンプライアンス推進、危機管理体制の維持・強化にグループ全体で取り組んでいます。

## コンプライアンスの考え方

企業を永续させ、あらゆるステークホルダーの要望に応えるためには、法令を遵守すると共に高い倫理観を持って企業活動を行う必要があります。タムラグループでは、「タムラグループ行動規範」および「倫理法令遵守規程」を基にコンプライアンス・ハンドブックを制定し、日常の職務を遂行する過程で遵守すべき以下の行動基準を定め、あらゆる不正・違法行為の未然防止に努めています。

- ・ 人権の尊重、パワハラ・セクハラ の禁止
- ・ 機密情報の保持、漏洩の禁止
- ・ 個人情報の保護
- ・ インサイダー情報の保持及びそれを基にした取引の禁止
- ・ 会社資産及び知的財産の適正利用と保護
- ・ 贈賄及び過度の接待・贈答の禁止
- ・ 反社会的行為への関与の禁止
- ・ その他業務上の固有のリスクを部署別に制定

なお、2016年4月よりコンプライアンス推進のための体制をCSR推進体制に統合し、新たな体制でコンプライアンス推進活動に取り組んでいます。

## 内部通報制度

タムラグループ内部において組織的・個人的に行われる違法行為等もしくはそれらに該当する恐れのある行為について、相談・通報を受け、問題行為の早期発見と是正並びに防止を図り、コンプライアンス遵守の体制を確立・強化することを目的とした内部通報制度を整備しています。

## ◆倫理法令相談窓口

これまでの社内通報の通報窓口である「社内通報窓口」を、2016年4月より「倫理法令相談窓口」と名称を変更し、運用制度を再整備しました。従来からの違法行為等の通報だけでなく相談機能を持たせるとともに、「社内窓口」に加え経営陣から独立した窓口として「独立窓口」を設け、コンプライアンス問題への迅速な対処と未然防止を図ってまいります。

タムラグループの役員、従業員等は誰でも社内窓口、独立窓口のいずれかを選択して匿名で通報・相談できます。通報・相談の際の不安を解消するために、社外のシステムを利用によりし情報の秘匿性を確保し、「内部通報規程」に通報・相談者の匿名性確保や不利益な取り扱いの禁止を規定しています。

通報・相談窓口		通報・相談の方法	
社内窓口	内部監査室長・法務部門長	・ホットライン	-専用電話
		・ヘルプライン	-PC・スマートホンのWeb -携帯電話のWeb -電話（オペレータ）
独立窓口	社外取締役・監査役	・ヘルプライン	-PC・スマートホンのWeb -携帯電話のWeb -電話（オペレータ）

## ピックアップ



▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT

[サイトマップ](#)
[このサイトについて](#)
[プライバシーポリシー](#)

Copyright © 2016 TAMURA Corporation. All rights reserved.



トップメッセージ	経営理念	CSRマネジメント	CSR活動実績	社会性報告	環境報告
編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料			
タムラグループのCSR	コーポレート・ガバナンス	コンプライアンス	リスクマネジメント		

[トップページ](#) [CSR活動](#) [リスクマネジメント](#)

## リスクマネジメント

倫理・法令の遵守を徹底するとともに、想定されるさまざまな経営危機に適切に対応するため、コンプライアンス推進、危機管理体制の維持・強化にグループ全体で取り組んでいます。

### リスク管理

#### ◆リスク管理規程

経営に重要な影響を与えるリスクへの対応を定めた「リスク管理規程」を制定し、グループ全体での危機管理体制の強化を図っています。この規程では、経営危機に対して役員および従業員が一丸となり、迅速かつ冷静に対応すること、そして人命に関わる場合には、人命の保護・救助を最優先させて対応することを原則としています。また、リスクの度合いと影響の大きさに応じてレベルAとレベルBに分類した「アラームエスカレーション項目」を定義しています。

#### ◆アラームエスカレーションWeb報告システム

アラームエスカレーションWeb報告システムは、「リスク管理規程」に定義されたリスク事象が発生したときに、イントラネットを利用して速やかに経営層まで報告を上げ情報共有を図ると共に、必要に応じ関係者が一丸となって対応するための報告システムです。タムラグループの役員・従業員等は、経営上の危機につながるとされる事象を発見した場合、速やかに報告を行うことが義務付けられています。

### 安全保障輸出管理への対応

日本をはじめとする主要国では、武器や軍事転用可能な貨物・技術が、国際社会の安全性を脅かす国家やテロリスト等、懸念活動を行うおそれのある者に渡ることを防ぐため、国際的な枠組みを作り、輸出入の管理を行っています。日本においては、この安全保障の観点に立った貿易管理の取り組みを、外国為替及び外国貿易法に基づき実施しています。タムラグループでは、旧ココム規制以来、これに対応した取り組みを実施しており、2005年7月には、新たな安全保障輸出管理規程を制定し、これを経済産業省に届け出ました。以来、社内に安全保障輸出管理体制を組織し、継続して厳格な対応をしています。

### 事業継続計画(BCP)

東日本大震災を契機に事業継続計画の重要性を認識し、2011年度に国内外の全事業所を対象とした「タムラグループ大規模地震対策マニュアル」を発行しました。大規模地震発生直後の初動対応から復旧、事業再開に至る対応内容を取りまとめたものです。2012年度には大規模地震以外の災害として、風水害、火災、大規模停電、集団感染、放射性物質による汚染、戦争/革命/内乱/暴動をリスクに加え、「タムラグループ緊急事態対策マニュアル」として拡張しました。事業所毎の事業継続計画策定はほぼ終わり、2013年度には電子化学事業セグメントにおいてグローバルでのBCP策定を行いました。いずれかの事業所が被災し操業できなくなったときに、一刻も早く他の工場で生産体制が整えられるよう手順や必要な文書を整備すると共に、代替不可能な材料については在庫を確保する等の対応を進めました。今後他の事業セグメントにおいても同様の取り組みを進め、当社グループを取りまく状況の変化に対応し、事業継続計画を継続的に改善していきます。

### ◆防災用品の整備および備蓄

事業拠点毎に防災用品の整備および備蓄を計画的に進めています。2012年度は、国内における徒歩帰宅困難者の3日分の飲料水と食料品の備蓄、従業員および常駐している協力会社社員などの全員を対象に避難用ヘルメットの配布、及び東日本大震災発生直後に通信手段が絶たれたことを教訓とした衛星電話の導入を行いました。2013年度は、停電時に備えた発電機、及び救助用具、簡易トイレ、毛布等の備蓄整備を、2014年度には災害備蓄セットの全従業員への配布、及び一部事業所へのリアカーの配備を、2015年度には災害備蓄セットを補完する携帯電話充電器等の全従業員への配布を行い、その整備を完了しました。

## 情報管理

### ◆情報セキュリティ

企業・個人情報などの適切な保護および管理のために、2008年度に「情報セキュリティ基本方針」および「情報セキュリティ管理規程」を制定し、情報に関するリスクマネジメントに取り組んでいます。ネットワークへのセキュリティ対策、データへのアクセス制御、外部記憶装置の使用制限などの技術的安全管理措置をはじめ、物理的安全管理措置として、IDカード認証システムを導入しています。

また、2016年1月から運用開始された「行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」に対応し、特定個人情報等の取得、保管、利用、提供、開示、訂正、利用停止、廃棄、削除の各段階における安全管理措置を確実に実行するための組織や体制を整備し、取扱担当者等の教育なども実施することで、特定個人情報等の保護に万全を期しています。

### ◆適時・適正な情報開示

適時に適正な情報を公開するため、ホームページ上に投資家情報サイトを開設し、コミュニケーション促進に取り組んでいます。有価証券報告書、決算説明会の資料などは発表後遅滞なくホームページに掲載しています。そのほかにも、株主・投資家の皆様向けの各種情報媒体として、決算短信（四半期ごと）や株主通信などを発行しています。IR情報は、[こちらをご覧ください](#)。

## 知的財産の保護

当社は、経営部門、事業部門と知的財産部門とが一体となって、知的財産権を尊重する活動をしております。事業活動を行ううえで適切に知的財産を創造・保護・活用し、また他者の知的財産権の侵害防止に努めております。

## ピックアップ



▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT

製品情報   投資家情報   CSR活動   採用情報   会社情報

トップメッセージ   経営理念   CSRマネジメント   CSR活動実績   社会性報告   環境報告

編集方針   CORPORATION REPORT   ダウンロード資料

トップページ ▶ CSR活動 ▶ タムラグループのCSR ▶ CSR活動実績

# CSR活動実績

タムラグループでは、以下のようなCSR活動を推進しています。

※クリックすると拡大画像が表示されます。

## CSR活動目標と実績

タムラグループでは、主に「コンプライアンス・企業倫理」「危機管理」「情報管理」「人権・労働」「環境・品質」「社会貢献」の6つの分野においてCSR推進に取り組んでいます。



■報告ページ  
Web:URL [www.tamura-ss.co.jp/jp/csr/index.html](http://www.tamura-ss.co.jp/jp/csr/index.html)  
一部を除いて活動全般を報告しています。  
\* 印の一部情報について、目標値及び実績値を報告しています。  
冊 子: Tamura Corporation Report 2016で報告している活動を示します。

■自己評価  
☀ 達成率100%以上   ☁ 達成率80～100%   ☔ 達成率80%未満

項 目	課 題	2015年度活動目標	2015年度活動実績	自己評価	報告ページ	2016年度活動目標
(全 般)	●CSRリスクの排除 ●CSRの浸透	●「CSR情報サイト」を活用した浸透教育	●CSR推進体制の再構築 ●コーポレートガバナンス・コードへの対応	☀	Web: ◆タムラグループのCSR ◆コーポレートガバナンス 冊 子: 19・20ページ	●「CSR情報サイト」を活用した浸透教育の海外展開
コンプライアンス・企業倫理	●経営理念・タムラグループ行動規範の浸透教育推進 ●法令・ルールの遵守の推進 ●コンプライアンス教育の充実	●経営理念・タムラグループ行動規範の浸透教育推進 ●コンプライアンス教育の推進	●内部通報制度を再整備し「倫理法令相談窓口」を設置 ●不正競争防止法・下請法の社内研修を国内5事業所・2営業所で実施	☁	Web: ◆コンプライアンス ◆従業員との関わり 冊 子: 19ページ	●経営理念・タムラグループ行動規範の浸透教育推進 ●コンプライアンス教育の推進
危機管理	●危機管理の強化	●BCP(事業継続計画)文書の定期・臨時の見直し ●各事業所備蓄品の計画的な整備 ●防災訓練の実施	●事業セグメントごとにグローバルでBCPを開関 ●国内各事業所にて、避難訓練、安否確認訓練を実施	☁	Web: ◆リスクマネジメント ◆従業員との関わり	●BCP文書の定期・臨時の見直し ●防災訓練の実施
情報管理	●情報保護の体制の強化 ●適時適切な企業情報開示の推進	●情報保護体制の強化 ●ホームページによる適時適切な企業情報開示	●特定個人情報取り扱いにおける管理体制整備 ●ホームページによる適時適切な企業情報開示	☁	Web: ◆リスクマネジメント ◆株主・投資家の皆様との関わり	●情報保護体制の強化 ●ホームページによる適時適切な企業情報開示
人 権 ・ 労 働	●CSR調達の実施 ●従業員向け社内研修の充実 ●公正・公平な評価制度の確立 ●多様性の推進 ●社内コミュニケーションの活性化	●海外研修の継続実施 ●ヘルスケアの充実 ●安全衛生社員研修 ●紛争鉱物(コンフリクトミネラルズ)対応	●評価制度のグローバル展開 ●新入社員向け海外研修 ●次世代グローバル研修制度育成研修 ●日本人能人技能継承育成研修 ●管理職対象「労務管理」セルフチェックアセスメント実施 ●ストレスカウンセリングの定期的実施	☁	Web: ◆取引先の皆様との関わり ◆従業員との関わり	●海外研修の継続実施 ●ヘルスケアの充実 ●安全衛生社員研修 ●女性活躍推進行動計画の実施 ●紛争鉱物(コンフリクトミネラルズ)対応
環 境 ・ 品 質	【品質】 ●顧客満足度のさらなる向上 ●グリーン調達の推進	●品質月間における品質向上啓蒙活動 ●タムラグループ品質推進大会の開催 ●グリーン調達基準の更新 ●製品含有化学物質管理の強化	●品質月間初日に品質担当執行員からメッセージ伝達 ●第9回タムラグループ品質推進大会の開催	☁	Web: ◆お客様との関わり ◆取引先の皆様との関わり	●品質月間における品質向上啓蒙活動 ●タムラグループ品質推進大会の開催 ●グリーン調達基準の更新 ●製品含有化学物質管理の強化 ●ISO9001:2015対応準備
	【環境】 ●ISO14001統合認証取得の推進 ●省エネルギー、省資源の推進 ●環境負荷物質の抑制、削減 ●環境貢献製品の提供	●環境貢献製品の売上比率 プレミア環境貢献製品:17% ●環境負荷物質削減: 2005年度比原単位64%削減 ●電気使用量の削減: 2005年度比7%削減 ●環境法規制遵守	●環境貢献製品の売上比率 プレミア環境貢献製品:17%【計画達成】 (一般環境貢献製品:61%【計画達成】) ●環境負荷物質削減:58%削減【計画未達成】 ●電気使用量の削減:5%削減【計画未達成】 ●環境法規制違反なし	☔	Web: ◆環境経営 ◆環境目標および実績と評価* ◆環境保全への取り組み* 冊 子: 21・22ページ	●環境貢献製品の売上比率 プレミア環境貢献製品:17% ●環境負荷物質削減: 2005年度比原単位52%削減 ●CO <sub>2</sub> 排出量の削減: 電気使用量2005年度比9%削減 ●環境法規制遵守 ●ISO14001:2015対応準備
社 会 貢 献	●継続性のある社会貢献活動の実施 ●地域共生、ボランティア活動の実施 ●文化、芸術、スポーツ振興の実施	●各種寄附活動 ●ものづくり教室開催 ●スポーツ振興 ●インターンシップ・職場体験学習受入 ●地域共生、ボランティア活動の実施 ●エコキャップ活動の推進 ●使用済み切手収集活動の推進 ●ユニセフ外国コイン募金の推進	●各種寄附活動 ●ものづくり教室開催(2回) ●ミャンマーにおける教育環境整備事業支援 ●スポーツ活動支援 ◆女子サッカーチーム(ちびれASエルフェン埼玉)への協賛 ◆群馬ごぶしパーマソン2016への協賛	☀	Web: ◆社会貢献活動* 冊 子: 20ページ	●各種寄附活動 ●ものづくり教室開催 ●スポーツ振興 ●インターンシップ・職場体験学習受入 ●地域共生、ボランティア活動の実施 ●エコキャップ活動の推進 ●使用済み切手収集活動の推進 ●ユニセフ外国コイン募金の推進

## ピックアップ

---



▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT

[サイトマップ](#)

[このサイトについて](#)

[プライバシーポリシー](#)

Copyright © 2016 TAMURA Corporation. All rights reserv


[お問い合わせ](#)
[サイトマップ](#)



製品情報

投資家情報

CSR活動

採用情報

会社情報

トップメッセージ	経営理念	CSRマネジメント	CSR活動実績	社会性報告	環境報告
編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料			
お客様との関わり	取引先の皆様との関わり	株主・投資家の皆様との関わり	従業員との関わり	社会貢献活動	

[トップページ](#) ▶ [CSR活動](#) ▶ [お客様との関わり](#)

## お客様との関わり

独自の技術による高品質な製品の供給を通じて、お客様の満足度向上に取り組んでいます。

- ▶ お客様満足度向上
- ▶ 品質

### お客様満足度向上

#### ◆サプライチェーンマネジメントの展開（MAPS※システム拡充）

お客様からの「必要な時に、必要な物を、必要なだけ」という納品のご要望にお応えるために、国内外の営業・生産拠点に基幹業務を一括管理するMAPSシステムを導入しています。また、評価指標管理を継続実施し、活動安定化を図っています。あわせて海外主要拠点へのMAPS導入拡大を図り、業務の平準化とサプライチェーンマネジメントの強化に努めています。

※MAPS : Management Accounting Production Salesの頭文字からなるタムラグループのERPシステムの名称。

#### ◆展示会への出展

タムラグループでは、より満足いただける商品やサービスを提供するために、国内外の展示会に積極的に参加し、お客様とのコミュニケーションの強化に努めています。2015年度は、日本をはじめ、中国、韓国、アメリカ、ドイツなどで、電子部品、照明、電子化学実装、放送機器等の分野の展示会に出展しました。



CEATEC JAPAN 2015（日本・幕張メッセ）

#### ◆Pioneer Electronics Asiacentre様よりBest Supplier賞を受賞

タムラ電子（マレーシア）は、2015年8月、Pioneer Electronics Asiacentre様よりBest Supplier賞を受賞致しました。新規部品納入にあたり、量産立ち上げの納期対応、コスト対応が大きく評価されました。



## 品質

### ◆タムラグループ品質方針

タムラグループでは、「タムラグループ品質方針」を制定して、グループ全体の品質の基本方針としています。

#### タムラグループ品質方針

##### 基本理念

顧客が満足する「価値」の提供  
「顧客の視点」での活動の展開

##### 品質方針

品質マネジメントシステムを構築し、継続的なマネジメントレビューをもってその有効性を維持向上させ、世の中に評価される高い品質の製品およびサービスを提供することにより、顧客の信頼と満足の向上に努め、社会に貢献します。

### ◆品質保証体制

タムラグループでは、事業領域の異なるあらゆるお客様のご要望に対応するため、電子部品、電子化学実装、情報機器と事業特性に応じた品質保証体制を構築しています。また、全事業の品質担当責任者が出席する品質管理委員会を年8回開催し、グループの品質情報を共有すると共に、品質問題の予防措置に努めています。

### ◆各サイトのISO9001：2008取得状況（2016年4月1日現在）

タムラグループでは、製造を行っている事業所及び関連会社でISO9001を取得しています。各事業所の品質マネジメントシステムを日々の品質管理、品質改善、品質問題の予防等に活用して、安定した品質の製品を納期厳守で納入するように努めています。

ISO9001：2008取得状況（2016年4月1日現在）

セグメント名	認証取得登録事業者名
電子部品関連事業セグメント	(株)タムラ製作所 電子部品事業本部 【坂戸事業所】
	(株)若柳タムラ製作所
	(株)会津タムラ製作所
	(株)光波【本社】
	田村電子（深セン）（有）
	田村電子（惠州）（有）
	タムラ電子（マレーシア）（株）
	タムラ・ヨーロッパ・リミテッド
	タムラ電子（メキシコ）（株）
	安全電具（惠州）（有）
	オブシード・バングラデシュ・リミテッド
	田村精工電子（常熟）（有）
	合肥博微田村電気（有）
	(株)韓国タムラ
	アースタムラエレクトロニクス（ミャンマー）（株）
電子化学実装関連事業セグメント	(株)タムラ製作所 電子化学実装事業本部 【入間事業所 / 児玉工場 / 名古屋営業所 / 大阪営業所】
	(株)タムラ製作所 FAシステム事業部 【狭山事業所 / 大阪営業所 / 名古屋営業所】
	タムラ化学韓国（株）
	上海祥楽田村電化工業（有）
	田村化研（東莞）（有）
	田村電子材料（天津）（有）
	田村化研科技股份（有）
	田村自動化系統（蘇州）（有）

## ◆品質推進大会

タムラグループでは、品質向上に取り組む意識を持ち続けるために、10月4日を「タムラグループ品質Day」と定め、毎年その時期に「タムラグループ品質推進大会」を開催しています。

2015年度は、グループ内2部門による品質向上に向けた取り組み事例の発表、及び外部講師を招いて「本音で品質保証を考える」と題した講演会を実施しました。



## ピックアップ



▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT

[サイトマップ](#)

[このサイトについて](#)

[プライバシーポリシー](#)

Copyright © 2016 TAMURA Corporation. All rights reserved



お問い合わせ

サイトマップ

検索キーワードを入力

Language

製品情報

投資家情報

CSR活動

採用情報

会社情報

トップメッセージ	経営理念	CSRマネジメント	CSR活動実績	社会性報告	環境報告
編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料			
お客様との関わり	取引先の皆様との関わり	株主・投資家の皆様との関わり	従業員との関わり	社会貢献活動	

トップページ ▶ CSR活動 ▶ 取引先の皆様との関わり

## 取引先の皆様との関わり

お客様に満足していただける製品をお届けするために、取引先の皆様と協力して、品質・環境・社会的責任への配慮に取り組んでいます。

- ▶ 購買方針（購買基本方針）
- ▶ CSR調達の推進
- ▶ グリーン調達の推進
- ▶ 紛争鉱物問題への取り組み

### 購買方針（購買基本方針）

2007年3月に制定した「タムラグループ調達ガイドライン」の中で、「グローバルカンパニーとして世界的な視野で資材調達を推進し、タムラグループビジョンに理解を示し、継続的なパートナーシップを構築できる会社と共に利益創出を追求します」と掲げ、品質、環境、独自性など7つのポイントを「タムラグループ購買基本方針」としています。

#### タムラグループ購買基本方針

- (1)品質について、「品質第一」の認識を強く持ち、タムラグループの品質管理方針を理解して、安定した品質管理が実行される会社と取引します。
- (2)環境について、環境保護の世界的潮流を充分認識し、タムラグループグリーン調達基準を順守し、率先して環境に配慮した取組みができる会社と取引します。
- (3)市場の要求に対して、常に積極的な改善・改革が実施できる自主性のある会社と取引します。
- (4)専門メーカーとして他社には無い独自性を持った会社と取引します。
- (5)取引ルートの簡素化を推進します。
- (6)意見・提案・情報を積極的に提供し、熱意を持って活動する会社と取引します。
- (7)人材を会社の財産と考え、社員教育を熱心に行い、会社全体のレベルアップに努める会社と取引します。

### CSR調達の推進

タムラグループは、製品の製造から販売までの事業プロセス全体に対するステークホルダーの関心の高まりに応えるため、サプライチェーン全体でのCSRの取り組みを推進すべく、「タムラグループ調達ガイドライン」で上述の「タムラグループ購買基本方針」を示し、さらに以下の具体的推進事項に関し、取引先の皆様へご理解とご協力をお願いしております。「タムラグループ調達ガイドライン」はこちらをご覧ください。

2014年3月末に近年の社会的な要請を反映するためにガイドラインを改定し、「CSR調達の推進」「グリーン調達の推進」「紛争鉱物不使用の推進」「事業継続計画の策定」の明記、および「反社会的行為への関与の禁止」の項目を新設し、取引先の皆様にガイドライン改定を通知すると共に覚書または契約等の締結にご協力をお願いしております。また、2015年度には電子化学事業において、取引先様へのコンプライアンス自己監査アンケートによるリスク判定を実施しました。引き続き取引先の皆様と一体となって、サプライチェーンを通したCSR推進を展開してまいります。

#### 具体的推進事項

- (1) お客様の信頼と満足の獲得
- (2) 基本的人権の尊重
- (3) 安全で健康的な職場環境
- (4) 自由な競争及び公正な取引
- (5) インサイダー取引の禁止

- (6) 不適切な接待及び贈答の禁止
- (7) 公的機関との不適切な取引及び不適切な政治献金の禁止
- (8) 安全保障輸出入管理関連法令の遵守
- (9) 知的財産権及びノウハウの創出、保護と活用
- (10) 反社会的行為への関与の禁止
- (11) 適切でタイムリーな情報開示
- (12) 情報（企業情報・個人情報等）の適切な保護及び管理
- (13) 貸与資産の管理
- (14) 地球環境の尊重
- (15) 国際社会との協調及び地域との共生

## グリーン調達の推進

お客様に、環境に配慮した安全な製品をお届けするため、2002年に「タムラグループグリーン調達基準」を制定。環境保全活動に取り組む取引先の皆様からの、環境負荷が少ない部品の調達をさらに積極的に進めています。また、環境マネジメントシステムの構築や「JIS Z 7201」等による化学物質管理システムの構築と含有化学物質の保証体制の構築、タムラグループが指定する環境管理物質の調査をお願いしています。「タムラグループグリーン調達基準」はこちらをご覧ください。

## 紛争鉱物問題への取り組み

米国ドット・フランク法（金融規制改革法）第1502条の紛争鉱物（コンフリクトミネラルズ）開示条項の最終規則が2012年8月22日に発効され、2013年1月より施行されました。紛争鉱物と定義されたスズ、金、タンタル、タングステンの4種類の原料となる鉱物が対象となり、紛争地域とされるコンゴ民主共和国（DRC）と周辺9ヶ国において、武装勢力によって不法に採掘された鉱物が製品に使用されているかどうかの実態把握が義務付けられました。それらの購入を中止することで武装勢力の資金源を断ち、紛争への加担を避けることが重要です。それに該当しないものをDRCコンフリクトフリーと呼び、使用する対象鉱物がDRCコンフリクトフリーであることを保証するよう企業に求められています。

当社のソルダーペーストや温度ヒューズには、スズを主成分とするはんだを使っているため、それらがDRCコンフリクトフリーであることを調査・確認することは、CSR調達を推進する上で、人権尊重、法令遵守の観点から重要であると考えています。

最終規則の発効を受けて2012年10月に調査要領を決定し、11月より取引先様へ実態調査を依頼しました。サプライチェーンを遡って製錬所を特定し、DRCコンフリクトフリーであることの調査になります。

当社では、指定した組成のはんだ地金を購入し、それを粉末化してソルダーペーストに加工しておりますので、はんだ地金の購入先およびそのサプライチェーンの皆様方にご協力いただきました。その結果、当社に納入いただいているはんだ地金中のスズは、DRCコンフリクトフリーであるとの報告をいただくとともに、可能性のある全ての製錬所を特定することができました。

温度ヒューズに使用するスズについては、現時点で一部、調査が未完了ですが、すでに回答いただいたものは、全てDRCコンフリクトフリーでした。

その他の材料についても取引先様および二次、三次の取引先様のご協力を得ながら紛争鉱物の使用実態の調査を進めています。

今後も、CSR調達を推進することにより、企業の社会的責任を果たしてまいります。

## ピックアップ



▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミア環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT



お問い合わせ

サイトマップ

検索キーワードを入力

Language

製品情報

投資家情報

CSR活動

採用情報

会社情報

トップメッセージ	経営理念	CSRマネジメント	CSR活動実績	社会性報告	環境報告
編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料			
環境経営	環境目標および実績と評価	環境保全への取り組み			

トップページ ▶ CSR活動 ▶ 環境経営

## 環境経営

タムラグループは、継続的な改善活動により環境負荷の低減に取り組むことで、社会的責任を果たすとともに、持続可能な社会づくりに貢献します。

### タムラグループ環境方針

環境理念

タムラグループミッションである「私たちは、タムラグループの成長を支えるすべての人々の幸せを育むため、世界のエレクトロニクス市場に高く評価される独自の製品・サービスをスピーディに提供していきます」にもとづき、地球環境・生物多様性の保全を推進し、全ての企業活動において環境との調和を図ります。

重点施策

タムラグループの事業である電子部品、電子化学材料、はんだ付装置、情報機器関連の設計・開発・製造・サービス活動において、環境マネジメントシステムを運用し、資源の有効活用、汚染の予防及び法規制等を順守すると共に、その継続的な改善を図り、次に示す環境保全活動を重点的に実施します。

1. 環境貢献製品を提供します。

2. 環境負荷物質を抑制し、削減します。

3. 省エネルギー、省資源を推進します。

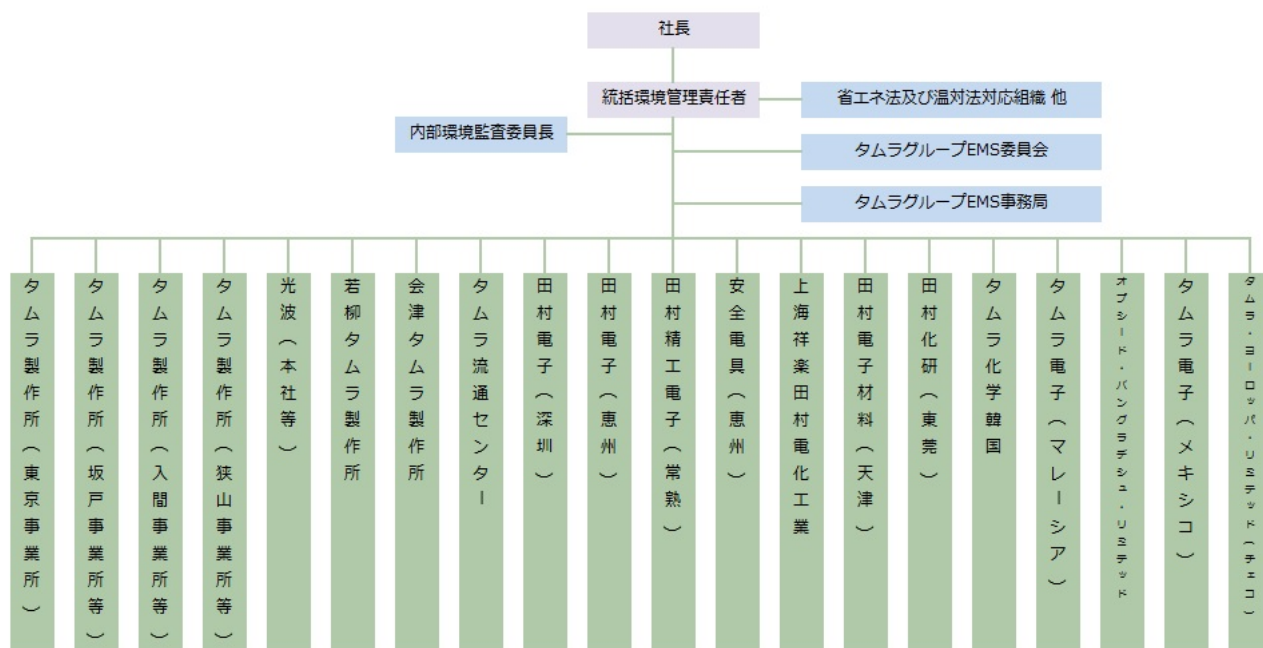
### 環境マネジメントシステムの統合

タムラグループは、2006年度より、グローバルに統一した環境マネジメントシステムを構築し、2015年度までに17社26サイトを統合し、タムラグループ全体の環境パフォーマンスの向上、環境ガバナンスの強化に取り組んでいます。

### 推進体制

タムラグループは、社長をトップとし、環境マネジメントシステムを管理するため、統括環境管理責任者を設置し、各サイトの事業部門の責任者を委員とした「タムラグループEMS委員会」を組織しています。  
タムラグループEMS委員会は、システムの運用に関わるコミュニケーションの向上や水平展開、グループ全体の環境パフォーマンスの改善を推進しています。

## ■推進体制図(2016年4月1日現在)



## タムラグループISO14001認証証明書

タムラグループISO14001認証証明書はこちらをご覧ください。

## ピックアップ



▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミア環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT

[サイトマップ](#)
[このサイトについて](#)
[プライバシーポリシー](#)

Copyright © 2016 TAMURA Corporation. All rights reserved.



お問い合わせ

サイトマップ

検索キーワードを入力

Language

製品情報

投資家情報

CSR活動

採用情報

会社情報

トップメッセージ	経営理念	CSRマネジメント	CSR活動実績	社会性報告	環境報告
編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料			
環境経営	環境目標および実績と評価	環境保全への取り組み			

トップページ ▶ CSR活動 ▶ 環境目標および実績と評価

## 環境目標および実績と評価

タムラグループでは3つの共通目標、「環境貢献製品売上比率の拡大」「環境負荷物質の削減」「電気使用量の削減」を掲げ、環境保全活動に取り組んでいます。

### タムラグループ目標および実績と評価

タムラグループは環境方針で重点施策に掲げた「環境貢献製品の売上比率の拡大」「環境負荷物質の削減」「電気使用量の削減」を3つの共通目標として環境保全活動に取り組んでいます。

2015年度は環境貢献製品を除き、目標未達成となりました。

環境負荷物質の削減は、新製品の投入等の影響により原単位が悪化してしまったため、化学物質の管理の徹底、リユース等を推進してまいります。

電気使用量の削減は、電力の見える化、省エネ設備等の導入を実施したものの、新規統合サイト等の影響により電気使用量を2005年度比7%削減の目標に対し、5%削減と目標に届きませんでした。引き続き省エネ対策を推進してまいります。

■ 2015年度 タムラグループ目標と実績

	環境目的	2015年度目標	2015年度実績	2016年度目標
I	環境貢献製品 売上比率の拡大	環境貢献製品の売上比率 プレミアム環境貢献製品:17% (一般環境貢献製品:60%)	17% (61%)	プレミアム環境貢献製品の売上比率: 17%
II	環境負荷物質の削減	化管法*対象化学物質 2005年度比:64%削減	58%削減	化管法*対象化学物質 2005年度比:52%削減
III	電気使用量の削減 (CO <sub>2</sub> 排出量の削減)	電気使用量 2005年度比:7%削減	5%削減	電気使用量 2005年度比:9%削減

\*化管法：特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律

### 温室効果ガスの長期削減目標

低炭素社会の実現に向けてタムラグループでは、2013年度からCO<sub>2</sub>排出係数の変動を考慮して電気使用量を指標とし、2020年度において、2005年度比15%削減を新たな目標に掲げ、推進しています。

## タムラグループ環境負荷の概況

タムラグループは、事業活動における環境負荷を定量的に把握し、プレミアム環境貢献製品の開発をはじめ、生産性の向上や物流の効率化など、事業活動のあらゆる場面で、環境負荷の低減に取り組んでいます。

### 2015年度 環境負荷の概況



※ 海外工場も同一基準で管理しており、本数値は海外分を合算した数値です。

### 環境負荷の経年変化

INPUT					OUTPUT				
	2013年度	2014年度	2015年度		2013年度	2014年度	2015年度		
電 気	53,278MWh	52,936MWh	55,595MWh		C O <sub>2</sub> 排 出 量	35,663t-CO <sub>2</sub>	35,259t-CO <sub>2</sub>	36,467t-CO <sub>2</sub>	
都 市 ガ ス	89千m <sup>3</sup>	65千m <sup>3</sup>	55千m <sup>3</sup>		排 水	412m <sup>3</sup>	357m <sup>3</sup>	378m <sup>3</sup>	
ガ ソ リ ン	266kl	237kl	213kl		廃棄物等総排出量	1,749t	1,842t	1,746t	
重 油	88kl	72kl	73kl		再 資 源 化 量	1,078t	1,147t	1,008t	
軽 油	156kl	142kl	124kl		最 終 処 分 量	184t	249t	268t	
灯 油	9kl	8kl	0.5kl		集 計 対 象 サ イ ト	25サイト	26サイト	26サイト	
用 紙	1,098万枚	1,039万枚	1,025万枚						
用 水	437m <sup>3</sup>	374m <sup>3</sup>	401m <sup>3</sup>						
化管法対象物質	160t	148t	191t						
集 計 対 象 サ イ ト	25サイト	26サイト	26サイト						

## ピックアップ



▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT

[サイトマップ](#)

[このサイトについて](#)

[プライバシーポリシー](#)

Copyright © 2016 TAMURA Corporation. All rights reserv

お問い合わせ

サイトマップ

検索キーワードを入力

Language

製品情報

投資家情報

CSR活動

採用情報

会社情報

トップメッセージ	経営理念	CSRマネジメント	CSR活動実績	社会性報告	環境報告
編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料			
環境経営	環境目標および実績と評価	環境保全への取り組み			

トップページ ▶ CSR活動 ▶ 環境保全への取り組み

## 環境保全への取り組み

- ▶ 事業活動
- ▶ 製品
- ▶ プレミア環境貢献製品の紹介
- ▶ リスク管理

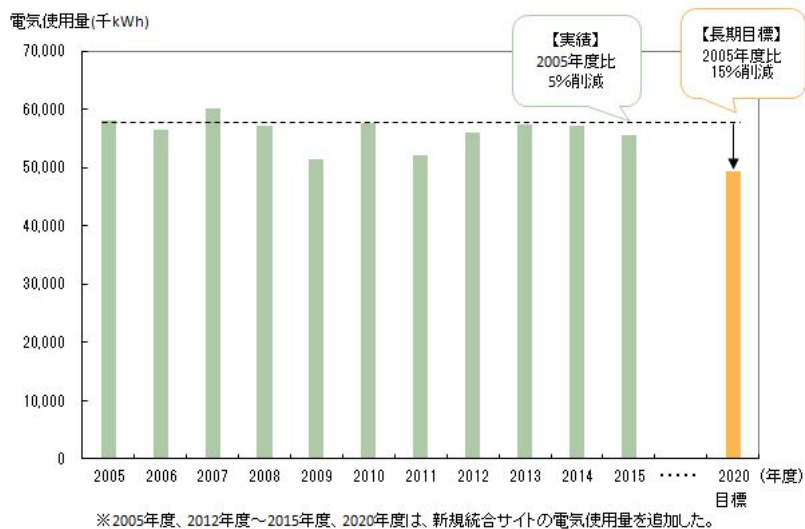
### 事業活動

タムラグループでは、事業活動を通じて地球温暖化防止に貢献するため、CO2排出量の削減および省エネルギー活動を推進しています。また、環境負荷物質を削減し、環境影響の最小化に取り組んでいます。

#### ◆電気使用量の削減（CO2排出量の削減）

2013年度からCO2排出量の削減目標は、CO2排出量の約95%を占める電気使用量に着目し、目標設定を行い、取り組みを推進しました。2015年度は、電力の見える化、省エネ設備の導入等を実施したものの、新規統合サイト等の影響により電気使用量を2005年度比7%削減の目標に対し、5%削減と目標に届きませんでした。引き続き省エネ対策を推進してまいります。

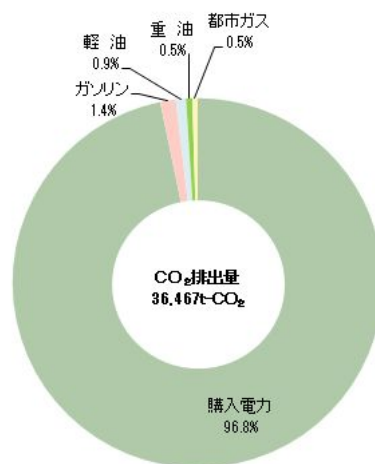
■電気使用量



■CO2排出量削減実績



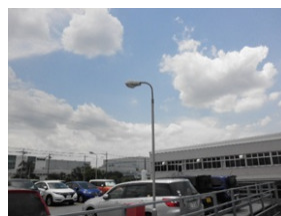
#### ■CO<sub>2</sub>排出量内訳(2015年度)



※:使用した係数について  
 電力のCO<sub>2</sub>排出係数:  
 国内 「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」参照  
 海外 「International Energy Agency Data Services 2005の数値」参照  
 電力以外のCO<sub>2</sub>排出係数:  
 国内外共通 「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」参照



省エネ型空調機への更新[坂戸事業所]



外灯のLEDへの更新[坂戸事業所]

遮熱塗料の塗布 [坂戸事業所]



塗布前



塗布後

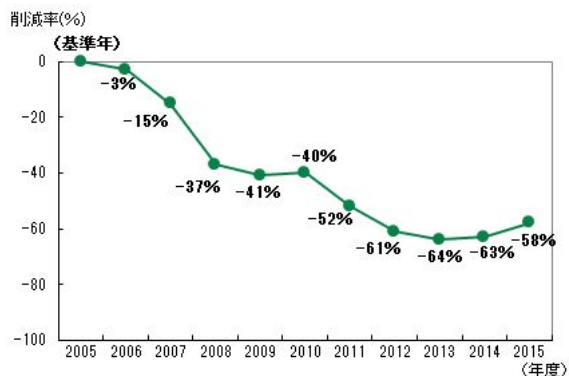
変電設備の更新 [坂戸事業所]



### ◆環境負荷物質の削減

2015年度は、売上金額原単位を指標とし、2005年度比64%削減を目標に環境負荷物質の削減に取り組みました。新製品の投入等の影響により原単位が悪化してしまったため、化学物質管理の徹底、リユース等を推進してまいります。

#### ■環境負荷物質



排ガス処理装置 [若柳タムラ製作所]

## 製品

タムラグループでは、製品のライフサイクルを見据え、環境影響の最小限化に取り組むとともに、プレミアム環境貢献製品の開発・提供を通じて地球環境への貢献を目指します。

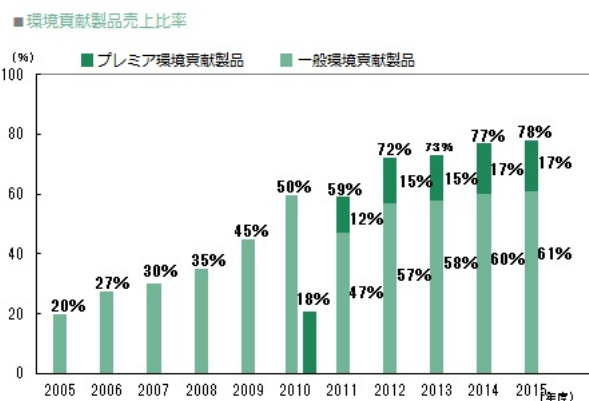
### ◆プレミアム環境貢献製品売上比率の拡大

タムラグループは、従来から環境負荷低減に貢献する製品を「環境貢献製品」（当社独自基準で評価）としておりましたが、階層構造製品環境アセスメントを導入して、環境貢献製品の中でも特に優れたものを「プレミアム環境貢献製品」に認定することとし、2010年10月から適用を開始しております。

プレミアム環境貢献製品の詳細はこちらをご覧ください。

2015年度は、プレミアム環境貢献製品の売上比率17%を目標に売上拡大に取り組みました。その結果、2015年度のプレミアム環境貢献製品の売上比率は17%となり、目標を達成しました。さらなる開発・提供を通じて環境負荷の低減に貢献していきます。

## プレミアム環境貢献製品の紹介



※：プレミアム環境貢献製品は、2010年度下期から導入したため、2010年度実績は下期を示す。

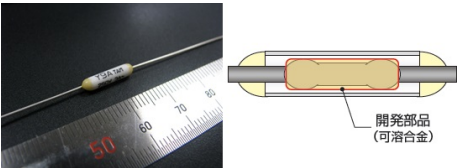
タムラグループでは、開発・設計段階で製品環境アセスメントを実施し、環境影響の最小限化に取り組むとともに、プレミアム環境貢献製品の開発・提供を通じて地球環境への貢献を目指しています。

### ◆高温帯合金型温度ヒューズY9A

温度ヒューズY9Aは、RoHS対応の合金型温度ヒューズでは、どの競合他社も実現できなかった動作温度191℃のONLY ONE温度ヒューズです。

動作温度が180℃から190℃である高温帯の合金型温度ヒューズには、必ず鉛を含有していましたが、可溶合金の配合や組立条件を検討することにより、鉛フリー化とRoHS対応を実現させました。従来は、やむを得ず鉛入りの合金型温度ヒューズを採用されていたお客様のニーズに応える、環境に配慮した温度ヒューズです。安全規格についてはUL、CCC、PSEの認可を取得済みです。

基本仕様	単位	従来品	開発品
		Y9 (非RoHS)	Y9A (RoHS対応)
環境負荷物質(Pb)	—	含有	非含有
公称動作温度(Tf)	℃	187	191
電気定格	AC250V	A	3A
常時使用温度	℃	120	115



◆省エネN2デュアルリフロー装置 (TNV60-588EMD)

省エネリフローとして既に多くのユーザーにご使用いただいていますTNVシリーズに、新たにデュアル搬送機構のN2リフロー装置が加わりました。この装置は、2列の搬送コンベヤを持つことにより、1台で2台分の基板実装が可能となるリフロー装置です。

TNVシリーズにて実績のある省エネ断熱構造を継承することにより、TNVシングル搬送2台と比較すると約45%の消費電力削減を実現しました。また、設置面積においても約45%の削減になります。車載関連ユーザー様を中心に導入していただいています。

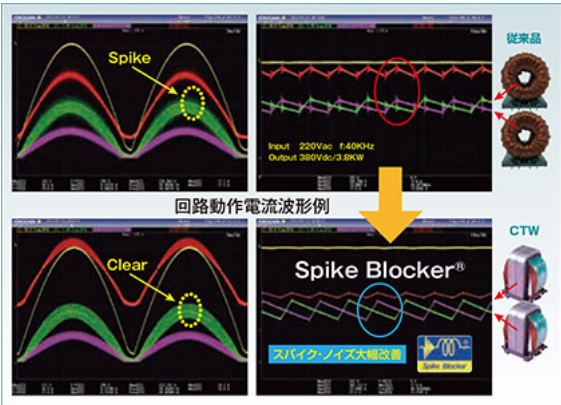
製品名	安定時消費電力	CO <sub>2</sub> 排出量(年間)*	設置面積
TNV25-508EM	7.94kW	26,440kg-CO <sub>2</sub>	—
TNV25-508EM×2台	15.88kW	52,880kg-CO <sub>2</sub>	18.08m <sup>2</sup>
TNV60-588EMD	8.96kW	29,836kg-CO <sub>2</sub>	10.06m <sup>2</sup>

\*年間稼働条件：20h×300d、CO<sub>2</sub>排出係数：0.555kg-CO<sub>2</sub>/kWh



◆PFC用高効率・低コスト・高性能リアクタ CTWシリーズ

あらゆる産業分野において、省エネルギー化の動きが年々活発になっています。CTWシリーズは、さまざまな機器の省エネルギー化を実現するために使用される、PFC (Power Factor Correction/力率改善)回路用の部品として開発したタムラ独自の製品です。その特長として、1) Hybrid技術及び構造の最適化：異素材鉄心の組み合わせによる特性の最適化、主材料である電線と鉄心以外の使用材料を最小限に抑えることにより、省資源化、省エネルギー化に貢献します。2) Spike Blocker®技術：スパイク・ノイズを最小限に抑える（右図）ことにより、周辺回路部品を削減し、省資源化、省エネルギー化に貢献します。

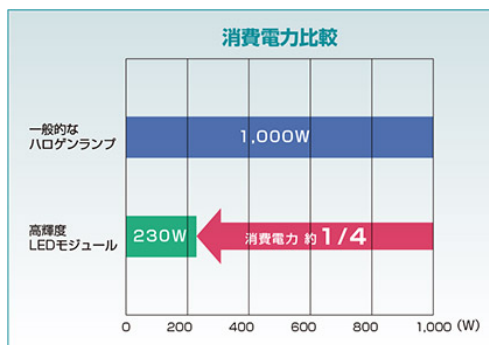


◆ハロゲンに代わる高輝度LEDモジュール

高輝度ハロゲンランプと代替可能なLED集積光源を実現しました。

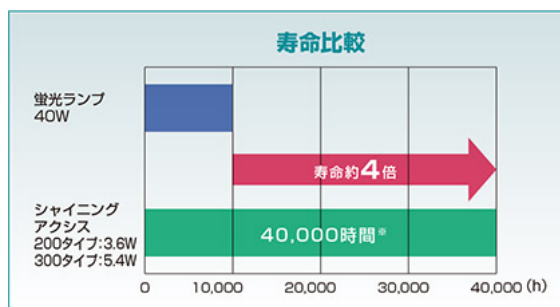
当然LEDならではの長寿命・高効率の特長を有しており、既存のハロゲンランプのような照らされて熱く感じる赤外線放射の放射もありません。

また、独自の高放熱構造により、高密度・大電流での動作を可能にし、今までのCOBパッケージでは不可能であったハロゲンランプを代替可能な小面積・大光量の高輝度性能（2タイプ：1,000w相当、650w相当）を実現しています。



#### ◆看板照明 薄型両面看板用光源モジュール シャイニングアクシス

「シャイニングアクシス」は、薄型両面看板用のLED光源です。光波独自の光学設計で超薄型の看板厚（60ミリ）まで対応可能な光源になります。従来、薄型の両面看板には導光板方式の光源が採用されており、発光効率も悪い上、高い初期投資費用が問題点でした。一方で看板の薄型化が進み、その市場ニーズと従来光源の課題解決が可能な側面照射方式で、且つ均一面発光が可能なLED光源需要が急速に高まっています。光波独自の光学設計を駆使した特殊レンズが採用されているアクシスは、薄型看板の発光ムラを極力抑え、また、従来よりもワンランク上の防沫設計（IP×4）を実現した新しいLED光源です。また、2ラインナップの組み合わせにより、多種多様なサイズの看板に対応可能なフレキシビリティを備えています。長い看板市場での経験を活かし、施工を更に容易にするための接続用オプションパーツも同時に商品化しました。

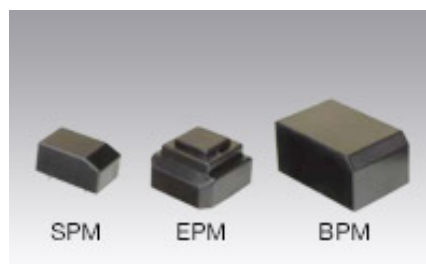
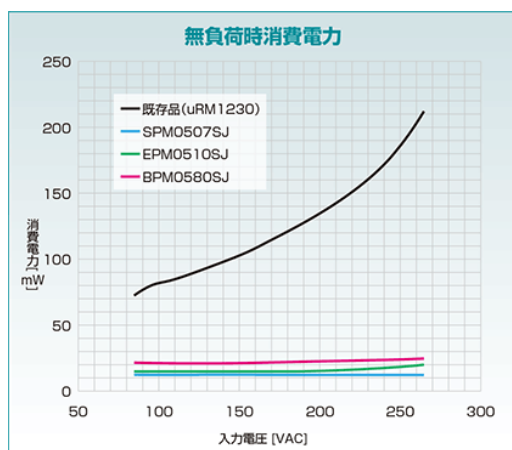


※Ta=25°C 全光束初期値70%時

#### ◆電源モジュール（SPM、EPM、BPMシリーズ）

省エネルギー化の法律規制強化が、世界的に進んでいます。また、エコ特性を付加価値とする電気製品も拡大しており、電源の省エネルギー化要求は高まる一方です。

高効率電源モジュール（SPM、EPM、BPMシリーズ）は、無負荷時の消費電力特性と、軽負荷時（製品の待機状態）の効率特性を、大幅に向上させたモジュールです。お客様の「業界最高水準の省エネルギー製品を、短期間で開発したい」という要求に対応し、使用電力量の削減と開発工数の削減に貢献します。



### ◆フレキシブル基板用ソルダーレジスト PAF-300シリーズ

近年、スマートフォンやウェアラブル製品に代表される、携帯機器には小型化、薄型化、軽量化、高機能化の要求があり、プリント配線板にも薄型化、軽量化、高密度実装対応が要求されています。そのような電子機器には、益々フレキシブルプリント配線板（FPC）の使用が進んでいます。

PAF-300シリーズはFPC用ソルダーレジストとして必要な折り曲げ性等の機能だけではなく、デザイン性を求めるお客様の声に応え、「機能性・安全性とともに退色しない色彩の美しさ」を併せ持った「ハロゲンフリーで難燃性を有し柔軟性に優れた多色対応可能なソルダーレジスト」です。

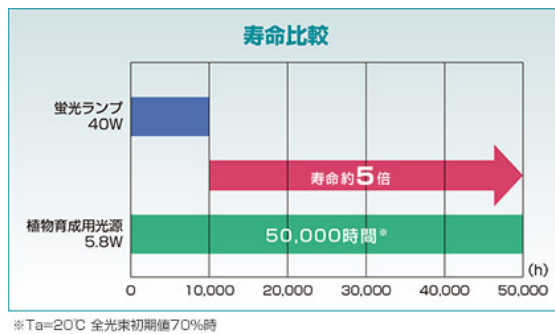
- 【特徴】
- 環境対応：ハロゲンフリー
  - 安全性対応：難燃性（UL対応）
  - デザイン性対応：多色対応
  - 機能性対応：折曲げ性・低弾性低反発・低反り性



### ◆植物育成用光源 DC12V/5.8W

植物育成で使用される蛍光ランプの代替および省エネ化を目的とし開発しました。

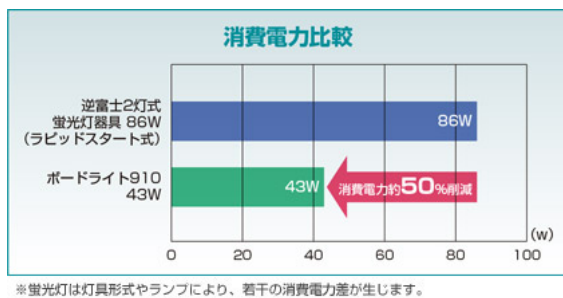
実績としてはブナしめじの育成に使用され、一般の蛍光ランプと同等以上の发育環境にあるとご評価を頂いております。長さは40W蛍光ランプと同等、寿命は50,000時間と従来の蛍光ランプの約5倍です。また、パイプにポリカーボネートを使用することで蛍光ランプのように割れる心配もなく安心してご使用頂けます。汚れた場合は防水構造なので水洗いが可能でお手入れも簡単です。



### ◆天井材型LED照明 ボードライトシリーズ

薄い、軽い、簡単施工の次世代型LED照明です。天井ボードを貼るような感覚で短時間で施工ができるため、オフィスや店舗のレイアウト変更にも柔軟に対応できます。

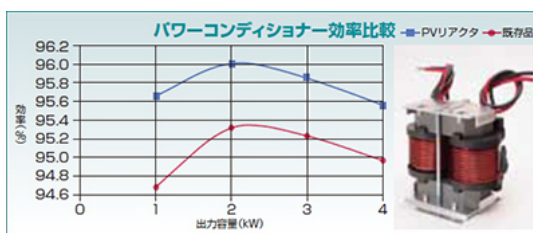
従来のラピッドスタート式蛍光灯2灯式器具と比べ約50%の節電効果があり、CO2や使用電力量の削減に貢献します。



ボードライト910

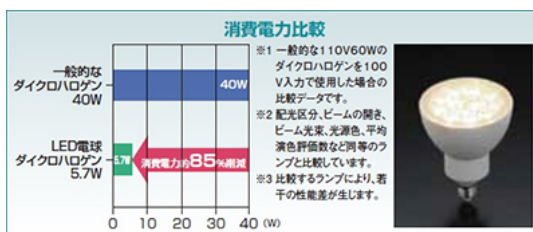
#### ◆太陽光発電向け高性能PVリアクタ

太陽光発電を行う際の電力変換装置（パワーコンディショナー）には、その電力変換効率をたとえ僅かでも向上させるための最新技術が盛り込まれています。その電力変換装置に搭載されるリアクタをPVリアクタとして標準化されたトータル108種のバリエーションにてカタログ化しました。その特徴は、1）異素材コアを組み合わせたHybrid技術、2）スパイクノイズを最小限に抑え、変換装置のEMC対策に貢献するSpike-Blocker技術、3）2つのMPPTを1台のリアクタで機能させるCB-Reactor技術があり、装置のセット効率向上に貢献しています。このPVリアクタはタムラが自信を持ってお届けする世界標準リアクタです。



#### ◆LED電球 ダイクロハロゲンタイプ 5.7W (LDR6L-M-E11/D)

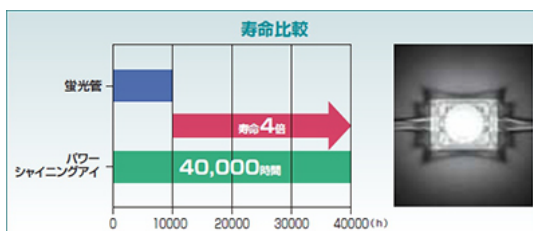
飲食店舗、アパレル店舗などの省エネをお手伝いすべく開発しました。従来のダイクロハロゲンランプと同等の大きさで業界最高クラスの明るさを実現しました。工事不要で手軽に置き換えられるだけでなく、一般的な40Wのダイクロハロゲンランプに比べて消費電力は5.7W、約85%の節電効果があり、CO2削減、使用電力量の削減に貢献します。



#### ◆パワーシャイニングアイ (FA0039FD31)

直下型のバックライト光源モジュールのパワーシャイニングアイは、内照式看板および各種間接照明光源として開発しました。これまでの蛍光灯方式の光源に比べ、小型・薄型化を実現したうえに、均一な面発光も可能になったため、さまざまな用途に対応できるようになりました。

一般的な内照式看板で使用する場合の消費電力は、従来の蛍光管と比べ約65%の節電を実現。また、40,000時間の長寿命によりメンテナンスコストの削減も好評いただいております。



## リスク管理

環境法規制の順守を徹底するとともに、事故および緊急事態を想定した教育や訓練を行うことで、事故の未然防止とリスクの最小化に取り組んでいます。

### ◆製品含有化学物質管理

タムラグループでは「タムラグループ製品含有化学物質管理ガイドライン」を2009年11月に制定し、製品含有化学物質管理をシステムチックに行うこととしました。その後、2010年4月に国内の子会社を統合したために、タムラグループ全体を適用事業所とする管理体制への見直しを行いました。2011年11月に「製品含有化学物質管理組織図」を、また、2012年2月に「同管理細則」を制定し、新たな管理体制のもとで、推進を開始しました。

これに基づき、製品含有化学物質に関する法規制等の情報に基づくグリーン調達基準の見直し、グリーン調達の推進、製品含有化学物質に関する情報やデータのお客様への提供というような一連の業務を迅速かつ正確に進めております。

### ◆環境法規制順守状況

環境方針に従い、環境法規制等を順守することは、事業活動の基本と認識します。2015年度は、環境に重大な影響を与える事故及び緊急事態はありませんでした。

### ◆環境教育

環境負荷を継続的に改善するためには、従業員一人ひとりが理解を深め、自覚を持って業務を行うことが重要と考え、さまざまな環境教育を実施し、正しい理解と実践に取り組んでいます。

### ◆緊急事態対応訓練

海外を含めた各サイトでは、環境に影響を与える様々な緊急事態及び事故を想定し、日常点検及び設備のメンテナンスによる予防対策と、事故発生時の緊急対策の2つのリスク管理体制を構築しています。また、緊急事態及び事故を想定した基本的かつ具体的な初動手順を定め、毎年、訓練を実施するとともに、手順の有効性の確認、見直しに取り組んでいます。



消防訓練  
[東京事業所]



排水設備対応訓練  
[坂戸事業所]



化学物質漏洩対応訓練  
[狭山事業所]



化学物質漏洩対応訓練  
[光波（本社）]



LPGガス設備対応訓練  
[会津タムラ製作所]



消防訓練  
[若柳タムラ製作所]



化学物質漏洩対応訓練  
[上海祥泰田村電化工業]



化学物質漏洩対応訓練  
[田村精工電子（常熟）]



化学物質漏洩対応訓練  
[タムラ電子（マレーシア）]



消防訓練  
[田村電子（恵州）]



化学物質漏洩対応訓練  
[安全電具（恵州）]



消防安全教育  
[タムラ化学韓国]

## ピックアップ



▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT

[サイトマップ](#)

[このサイトについて](#)

[プライバシーポリシー](#)

Copyright © 2016 TAMURA Corporation. All rights reserv


[お問い合わせ](#)
[サイトマップ](#)



製品情報

投資家情報

CSR活動

採用情報

会社情報

トップメッセージ	経営理念	CSRマネジメント	CSR活動実績	社会性報告	環境報告
編集方針	CORPORATION REPORT	ダウンロード資料			

[トップページ](#) ▶ [CSR活動](#) ▶ [編集方針](#)

## 編集方針

「CSR活動」サイトは、タムラグループのCSRの取り組みについて、ステークホルダーの皆様にご理解いただくためのサイトです。CSR活動はタムラグループの企業活動そのものであるという考え方から、当社が事業活動を通じてCSRを実践している姿をわかりやすく伝えるように心がけました。

当サイトの編集にあたっては、環境省『環境報告ガイドライン（2012年版）』、ISOガイダンス規格『ISO26000』を参照しました。

また、『TAMURA CORPORATION REPORT 2016』は、グループ概要や事業を紹介した【CORPORATE PROFILE】と、CSR活動をダイジェストで紹介した【CSR REPORT DIGEST】を1冊にまとめて、タムラグループをご紹介します冊子として発行するものです。

## 報告対象期間

2015年4月1日～2016年3月31日（一部、2016年4月以降の活動も含みます）

## 報告対象範囲

株式会社タムラ製作所及びグループ会社です。

ただし、環境報告については、各種データ、及び活動報告とも、当サイト[環境経営ページの推進体制図](#)に掲載されている事業所及び関係会社を対象範囲としております。

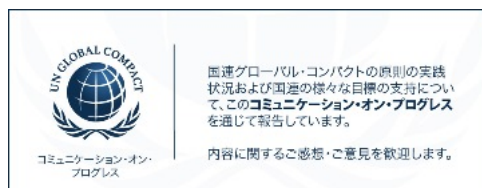
## 発行

2016年7月（前回：2015年7月 次回：2017年7月）

なお、最新の活動情報については、「CSR活動」サイトに随時追加掲載し、新着情報でお知らせいたします。

## 国連グローバル・コンパクトへの報告

「CSR活動サイト」及び「TAMURA CORPORATION REPORT」を国連グローバル・コンパクト署名企業の年次活動報告書「コミュニケーション・オン・プログレス」として提出しています。



## お問い合わせ先

CSR推進本部 CSR・環境・品質推進室

TEL：03-3978-5293 FAX：03-3978-2760

メールフォーム <http://www.tamura-ss.co.jp/inquiry/index.html>

## ピックアップ

---



▶ 経営理念



▶ タムラのオンリーワン商品・プレミアム環境貢献製品



▶ 新卒採用情報



▶ CORPORATION REPORT

[サイトマップ](#)

[このサイトについて](#)

[プライバシーポリシー](#)

Copyright © 2016 TAMURA Corporation. All rights reserv